



CONTENTS

やまなしの思い出 Memories of Yamanashi	2
県海外技術研修員・留学生等レポート	
オープンキャンパス「やまなし YIA 国際塾」に灯るまちの光	4
山梨県立大学国際政策学部准教授 吉田 均氏	
JICA 通信「新隊員紹介」	
Voice from Yamanashi, Estagiários 2010	5
Eventos, Cozinha Internacional	6
World Charity Christmas Report, etc.	7
Voice from Yamanashi (山梨学院大学 カタダ・タウンダ)	8
Cooking @ Home 韓国家庭料理「鶏(タッ)カンジョン」	
Information	9
YIA Event Calendar	10

昨年 12 月 11 日、国際交流センターにて毎年恒例の「ワールド・チャリティ・クリスマス」が行われ、260 名を超える皆さんにお越しいただきました。今年は、クリスマスマーケットからはじまり、インターナショナルのど自慢、アフリカンジャンベ、クリスマスソング等、さまざまなパフォーマンスの他、タイ、台湾、中国、韓国、ブラジル料理など世界の料理を楽しみました。(詳細は 9 ページ)

Foi realizado dia 11 de dezembro no Centro Internacional de Yamanashi, o tradicional "World Charity Christmas", onde compareceram cerca de 260 pessoas. Este ano o evento contou com a feirinha de natal, karaokê, shows e comida de diversos países. (pág.6)

Last December 11th, more than 260 people came to celebrate the traditional "World Charity Christmas" event, occurring every year at the International Centre. This year, visitors could enjoy a Christmas market, an international karaoke contest, performances such as African Djembe and Christmas songs, and international food from Thailand, Taiwan, China, Korea, Brazil, etc. See page 7 for details!

Memories of Yamanashi

やまなしの思い出

昨春来日した県海外技術研修員、県費留学生、派遣職員、自治体協力交流研修員の皆さんが、この度それぞれの研修、研究等を終了しました。

山梨での日々や研修等の様子を振り返り、代表して3人の皆さんにさまざまな思いを綴っていただきました。

出身／研修（研究）内容／研修（研究）先



文化交流の大切さ

ダニエウ マギノ ダ シウヴァ サントス Daniel Magno da Silva Santos

ブラジル／商業デザイン／（株）サンニチ印刷

Daniel Magno da Silva Santos

日本文化に初めて触れたのは、子供の頃テレビで見たスーパー・ヒーローの番組でした。当時の私はそのような番組の視覚効果と冒険物語が好きでした。

成長するにつれ、東洋文化への興味は、音楽や文学へと広がっていききましたが、それはブラジルで流行っていた日本のポップ・カルチャーに限定されていました。大学で日本のデザイン技術とその歴史を勉強することで他のジャンルに興味を持つようになり、東洋へのあこがれがより強いものとなりました。

ポップ・カルチャーに興味なくなっただけではありませんが、逆に日本文化を尊重するポップ・コミュニケーションを世界に向けてアピールできる日本のデザイン技術に刺激を受けるようになりました。私はブラジルの可能性を信じながら、ミナス・ジェライス州立大学でグラフィック・デザインの学位を取得、プロジェクトの中に日本の感性を取り入れました。1920~1930年代のブラジルの「ストリート・カーニバル」の歴史を紹介し、伝統的な要素を取り入れた土産や地域の特産品等の製造を提案しました。日本のように、ブラジルにも豊かな文化的要素が秘められているのではないかと思います。それは、ブラジル文化を世界に紹介するだけでなく、経済効果が得られるものだと思います。

日本で暮らし、古代から伝わる文化と調和しながら経済発展を遂げてきた文化に触れ合うことによって、私の最大の目的が伝統的な大衆文化の開示や保護、保守であり、プロモーターとしてデザイン技術を研究していきたいと思っています。ブラジルの文化産業は、経済発展のために将来有望な基盤となるものと信じています。

文化は国家の最大の財産の一つです。日本文化は世界的に認められ、その歴史や形、人々は、見る人を魅惑する「商品」です。ブラジル人としての私の挑戦は、ブラジルの文化の魅力に興味を持ってもらえるようなアプローチを研究

することです。私にとって、1973年に経済、教育、文化等の分野での協力を目的として結ばれた山梨県との姉妹関係により、2010年度山梨県海外技術研修員としてミナス・ジェライス州を代表し、来県できたことは大変名誉なことです。日本で過ごした8ヶ月間は文化に対する意識を育てる機会となりました。文化は生きていて、手を加えて育てると実るものだと思います。日本文化に触れ、さまざまな国の人々と出会うことは大変貴重な経験です。他の国に対する敬意の念が私の中で育ち、自国の文化をこれまで以上に大切に思うようになりました。

ブラジルに帰国した後は、新しい目標を決めなければなりません。新たな友情を育んだ喜びと多くの思い出を心に刻んでおきます。そして人間は文化の違いを乗り越え、互いに理解を深め、尊重し合うことで強く優いつながりを作ることができるという確信を持ちながら帰国します。互いの違いは反発し合う材料ではなく、文化はみんなの財産であり、それを分かち合うことでより大きく強固なものへと成長することでしょう。

山梨県、そしてミナス・ジェライス州政府の皆さま、研修員として日本を訪れる機会をいただき大変感謝しています。尊厳、温かさでプロ意識を持って受入れてくれたサンニチ印刷、そして山梨県国際交流協会の人達の優しさや友情に感謝いたします。

A todos, muito obrigado!

皆さん、本当にありがとうございました。

忘れられない山梨での生活

全 東信 Chun Dong Sin

韓国／日本語教育論／山梨県立大学

Chun Dong Sin



韓国忠清北道から日本への派遣留学生募集を通じ、僕は2010年4月30日に山梨県にやって来ました。来る前はあまり実感できなかったり、不安もありましたが、だんだん早く行きたい気持ちや新しい生活への好奇心でいっぱいになりました。

実は、僕は日本で生まれ、10年間東京で過ごしました。山梨県は初めてだし、成人になってから日本へ行くのは初めてだったので、とても期待していました。

また大学の専門も日本語で、将来日本語を生かした仕事を考えていることもあり、日本語の上達や今の日本文化を体験しながら日本で住むということは、とても貴重な経験になると思いました。

山梨県での生活が始まってから、すぐゴールデン・ウィークだったので、町も静かで、知り合いもなく、しょんぼりした気持ちにもなりましたが、県庁の担当者の方が松本城へ連れて行ってくれたり、JETプログラムできてアメリカの方たちと交わりながら、すぐに山梨での生活に慣れてきました。また5月にメキシコやペルー、ブラジルなどから研修生たちがきてからは、韓国での生活よりむしろもっと楽しい毎日を過ごしました。

韓国では外国人の友だちがいなかったの、最初のうちは、いろんな国の人たちと短期間で知り合うのが単に楽しかっただけだったけれど、時間が経ち、一緒に遊んだりしながら、本当に心から友だちになれました。他国の文化を知ることとてもいい経験だし、いろんな国の挨拶を覚えたりすることも韓国ではなかなかできないことです。

山梨で僕が主に勉強をした場所は、山梨県立大学です。県立大学の授業は、韓国では学べなかった日本語の教育方法論や音韻、文字など日本語に関するいろんな授業を受講でき、とてもよかったです。また国際コミュニケーション学部だったので、外国人留学生に対してみんなとてもやさしかったです。

夏ごろから始まった学校での韓国語の授業は僕にとってとてもよい経験でした。母国語をしゃべれることだけでは、「教える」ことに直接結びつかないということを知りました。授業に来てくれた生徒たちは、とても優しくしてくれて嬉しかったです。

いろいろな通訳の仕事のお手伝いをさせていただいたことも忘れられない思い出です。忠清北道からきたサッカーチームや環境研究所の職員など、いろんな方たちが来県した時に、簡単な通訳のお手伝いしました。その後“もっと勉強しないと”という思いでいっぱいになり、通訳という仕事の魅力を感じるようになりました。

来県前、昨年派遣留学生としてきていた1年先輩のナムさんが“山梨での思い出は決して忘れられないし、山梨が日本で一番大好きな所だよ。”と言ったことが今、わかるようになりました。きっと優しい山梨県の人々や美しい自然環境など、豊かな山梨での生活で、僕もナムさんも自然と山梨が大好きになったのでしょう。

僕は、山梨でいろんな国際交流イベントに参加しました。さまざまなイベントを通じて、自分の視野を広め、共に生きることがどんなに大事なことを知ることができました。

最後に、今、山梨にきて一番大切なものは何ですか？と聞かれると、僕は心からここで知り合った研修生の友だちだと答えます。また、彼らもそう答えると思っています。

山梨でお世話になったみなさん、本当にありがとうございました。

忘れられない思い出に満ちる山梨

陳娟 Chen Juan

中国／看護／山梨県立中央病院

Chen Juan



初めて外国、日本。今思い出しても、成田空港に着いた時の不安と好奇心いっぱいの気持ちは忘れられません。

私は、山梨県と姉妹都市である四川省から研修生としてやってきました。中国で読んだ山梨県の資料によると、山梨県といえば、やはり神聖な富士山、美味しい桃やぶどうなどだと思います。今年の7月から山梨県での研修が始まり、時間が経つに従って、最初の不安がだんだんなくなり、楽しくて充実した研修生活が送れるようになりました。

私の専門は看護なので、山梨県立中央病院と山梨県看護協会の訪問看護ステーションで研修しました。山梨県立中央病院で呼吸器内科、循環器内科、腎臓内科、救急救命センター、ICU（集中治療室）、手術室、一般外科等での研修によって、日本の医療体制、山梨県立中央病院の看護文化及び看護理念、親切・丁寧で専門的な看護実態、看護管理等についてとても勉強になり、帰国後も確実に参考になると思います。

また、病院でさまざまな先進医療施設、電子カルテの運用、医療連携により医療資源を活用する様子等を見学させてもらい、本当に勉強になり、有意義な時間でした。

山梨看護協会の3つの訪問看護ステーション（ゆうき、荒川、貢川）での研修を通して、日本の訪問看護制度、介護保険制度、訪問看護の教育と人材の育成、訪問看護の実態及びステーションの運営等を学びました。日本の在宅医療システムと訪問看護についても理解できるようになり、とてもいい経験でした。中国では訪問看護が一般的であり、在宅医療システムはまだです。それが行き渡るように、日本の在宅医療と訪問看護の経験や管理技術等を参考にすることができたらと思っています。研修先で日本語があまり上手ではない私に、ゆっくりと話してくれる親切な日本人の皆さんに助けられました。慣れない仕事を前にして、やさしく繰り返し教えてくれた看護師の皆さんに、また、手術を見学する際、親切に説明してくれた先生方に、訪問看護の間、細かく教えてくれた訪問看護師の皆さんに、訪問看護利用者の家へ行った時、いろいろな美味しい食べ物を出してくれたおじさんとおばさん達に、心から感謝の気持ちを伝えたいです。本当にお世話になり、ありがとうございました。私にとっていつまでも忘れられない思い出となりました。

山梨県国際交流センターに住み、毎日部屋のベランダから綺麗な富士山も見る

ことができ、とても幸せでした。いくつかの国からの研修生や留学生もセンターに住んでいたの、夕食の時や週末になると、中国、韓国、アメリカ、ブラジルなど外国の料理を味わうこともできたり、他の国の言葉も勉強できました。こういった話を病院の同僚に言うと、皆、羨ましがっていました。同じように自分の故郷から離れた来た私たちにとっては、センターは国際家庭のようなところで、とても楽しかったです。

来日した主な目的が研修ですが、できるだけ毎日日本語を勉強し、日本文化を理解しようと努め、専門的な知識を学びました。子ども達と八ヶ岳少年自然の家で夏のキャンプをしたこと、市川大門の花火大会で浴衣を着て綺麗な花火を觀賞したこと、身延山で長い石段を登り、由緒あるお寺を見物しながら日本の宗教文化に感銘を受けたこと、一生懸命富士山頂まで登り、ご来光に感激したこと、「甲府大好きまつり」で日本の伝統的な軽食を食べたこと、また和紙や天ぷら作りを体験したこと等、書き尽くせないほどたくさんがありました。さまざまな活動に参加し、いろいろな名所を歩き、この国の民族文化を体験し、とても勉強になりました。

先日、研修生達と県外研修に行きました。広島で原爆ドームと平和記念資料館を見学し、修学旅行の学生が、原爆で亡くなった方々に黙祷している姿を見て、世界平和が一番大切だとしみじみ感じました。実は、広島は私が日本滞在中、行きたかった場所の一つです。悲しい歴史を背負っている広島ですが、綺麗で落ち着く雰囲気を感じました。そして、立派な奈良東大寺と京都二条城、神聖な厳島神社と大鳥居、美しい紅葉の龍安寺、神秘的な三十三間堂、優雅な歌舞伎の演出等々を通して、更に日本文化を深く理解したように感じます。日本の代名詞と言えば、紅葉、歌舞伎また神社だと思っています。

楽しい時間の経つのはいつも速いものです。帰国の日が近づき、残っている時間はだんだん少なくなります。満開の桜を見ることできないのは残念ですが、親切な山梨県民、綺麗な景色、美味しい果物、快適な環境、雄壮な富士山等、もう忘れられない思い出になりました。

最後に、お力添えをいただいた皆さまに心から感謝いたします。中日の友好交流がずっと続いていくようにお祈りしております。時間があれば是非中国の四川省にいらしてください。可愛いパンダが待っていますよ！

再会、朋友！再会、山梨！（ザイウエ、ペンユウ！ザイウエ、サンリ！）



財団法人山梨県国際交流協会 設立 20 周年記念事業

オープンキャンパス

「やまなし YIA 国際塾」に灯るまちの光

山梨県立大学国際政策学部 准教授 吉田 均

YIA 国際塾には、新たな講座となる予感がありました。

多くの国際関係講座は、ただ聞くだけの教養講座の枠を超えることができません。それは報告の対象が、海外であることが多いからです。またこのような講座は、大変興味深いものの、聞いている者に誤解を与えることがあります。それは「国際関係とは、有名な専門家が海外で行う活動」という誤解です。したがって多くの受講者は、聞いている際は心を揺さぶられますが、その後何もできない自分に当惑してしまいます。

このような教養講座を変えるための方法を、多くの関係者が模索し続けてきました。そして考えるヒントが、いくつか見つかっています。

- 第 1 に、受講者が自分の住む地域の現実を知ること。
- 第 2 に、受講者による参加型の講座とすること。
- 第 3 に、受講者自身も新しい世界を思い、その中に自分を描き込むこと。

そこで今年度の YIA 国際塾では、講師による講演のほか、最後に受講者による自主研究報告会をセットしました。

その目的は、以下の内容でした。

- 1) 講師から学んだことを自ら生かすこと。
- 2) 国際関係で地域に必要なことを考えること。

そして今年度は、A) 山梨県グループ、B) 甲府市グループ、C) 国際交流協会グループ、D) 国際交流センターの周辺地図グループの 4 グループに分かれて調査研究し提案を作成しました。最終回には各団体の代表者の方に来ていただき、報告を聞いていただきました。そして幾つかの提案は、実際に採用していただくという快挙となりました。

かつて国際関係は、地域住民に明るい未来を暗示させる光でした。しかし今、人々の関心が内向きとなり、その灯を見失いがちです。国際関係のフロンティアは、今でも山梨県内の至る所に存在しています。もしそれが見えないとすれば、私たちが認識していないか、認識方法が誤っているに過ぎない。そんな思いを強くする自主研究の報告会でした。

JICA 通信

新隊員紹介!



今回は、協力隊と 1 月に出発した新隊員を紹介します。今は現地に赴き、現地の方々と一緒に元気に活動していることと思います。

青年海外協力隊は誕生してから 40 年以上経過し、現在では、世界 80 カ国に 3 万人以上が派遣されています。青年海外協力隊、シニア海外ボランティア、日系社会青年ボランティア、日系社会シニア・ボランティアの 4 種類に分けられ、職種は、120 種以上あります。

協力隊は、現在年間 4 回の派遣を行っています。6 月に派遣される隊員が 1 次隊と呼ばれ、9 月が 2 次隊、1 月が 3 次隊、3 月が 4 次隊と呼ばれています。隊次の前に年号をいれ、平成 22 年度 3 次隊という呼び方をします。今回派遣された、山梨県出身の 5 名を紹介します。

写真左から、

- 原田匡剛さん (上野原市出身) 小学校教諭 (アフリカ ジブチ)
- 五味文子さん (甲府市出身) 美術指導 (南米ペリウズ美術専門学校)
- 田村雅子さん (山梨市出身) 理数科教師 (アフリカ タンザニアの中学校)
- 古澤輝由さん (甲府市出身) 理数科教師 (アフリカ マラウイの中学・高等学校)
- 志賀隆昌さん (富士河口湖町出身) 日本語教師 (中国 西寧の職業技術専門学校)

今回の 5 名の新隊員はみんな教員として活躍されます。2 年後、元気な姿で再会できることを楽しみにしています。みなさん応援してあげてくださいね。

JICA 山梨デスク 伊藤

〒400-0035 甲府市飯田二丁目 2-3 (財) 山梨県国際交流協会内
Tel. 055-228-5419 Fax. 055-228-5473 jicadpc-desk-yamanashiken@jica.go.jp
JICA <http://www.jica.go.jp>



変わり行く四季折々の日本を旅するバスツアー

富士急

グリーンツアー
GREEN FOUR

価値ある旅 魅力ある旅を

快適な旅をお約束する

富士急トラベル

観光庁長官登録旅行業第101号

◇甲府支店 〒400-0031 甲府市丸の内 2-35-4

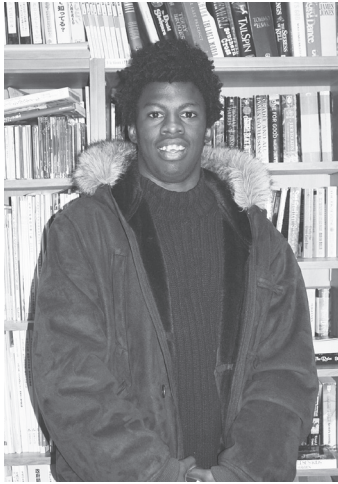
TEL 055-228-1000 FAX 055-222-5010

上記店舗にご連絡下さい。「パンフレットのお届け」、「個人・グループ・団体旅行の企画、ご相談」など弊社社員が旅のサポートをいたします。

世界の自然・文化・遺産にふれる魅力いっぱいの海外ツアー

感動いっぱい
富士急
ジョイフルツアー

Esta é a terceira edição do Voice in Yamanashi.
O convidado desta edição é Katedza Tawanda, estudante do terceiro ano da Universidade Yamanashi Gakuin.



Nome: Katedza Tawanda

Nasceu em 1988 na cidade de Harare, capital da República do Zimbábue (África). Veio ao Japão aos 14 anos devido ao trabalho de seu pai.

Estudante do depto. de Gestão de Informação da Universidade Yamanashi Gakuin.

“Sonho para as Crianças da África!”. A Banda de Rock “Stevens Jealousy” gravou um CD, para arrecadar fundos em uma Campanha para enviar bolas de futebol para as crianças em Zimbábue. Segue abaixo entrevista com o vocalista da banda.

NY. O que o levou a começar este trabalho?

CO. Depois de entrar na faculdade, por ter conhecimentos de japonês, inglês e xona (língua falada em Zimbábue), comecei a pensar se poderia fazer algo para estreitar a relação entre Zimbábue e Japão. Foi quando cheguei a conclusão que podia ajudar com algo que eu gosto, música.

NY. Por que Bolas de futebol e não dinheiro?

CO. Jogava bola na escola quando estava no ensino médio. Durante a Copa do Mundo de 2008, lembrei das crianças pobres de Zimbábue. Decidi enviar bolas de futebol, esperando poder ver o sorriso das crianças jogando bola.

NY. Por que o nome “Stevens Jealousy”?

CO. É o nome da banda desde a época do ensino médio. Escolheram este nome porque diziam que eu parecia com o Steven Gerrard, jogador do time Inglês Liverpool. Desde abril de 2010 a banda conta com 3 componentes. Sou o vocalista e toco guitarra.

NY. Onde está a venda o CD da banda?

CO. Está a venda nos locais em que a banda se apresenta e no departamento de aconselhamento e apoio ao estudante da Universidade Yamanashi Gakuin (055-224-1402) por 500 ienes.

Felizmente conseguimos receber apoio da universidade por meio do programa “Gakusei Challenge”, conseguindo este modo produzir e

vender os CDs.

NY. Como está a campanha no momento?

CO. Estamos apresentando shows algumas vezes ao mês. Para mais informações, podem acessar o HP (<http://47.xmbs.jp/kobuti/>).

NY. Qual o seu Hobby?

CO. Música, futebol, assistir a filmes e estudar sobre política e meio ambiente. Encontrar pessoas novas. Sair com os amigos.

NY. Se mudou para Japão aos 14 anos devido ao trabalho de seu pai. Qual a sua impressão do Japão? Sentiu um choque cultural?

CO. Logo que cheguei, me assustei com os prédios altos de Tokyo. Era como uma cidade apertada em um canto, com as ruas parecendo um labirinto. Entrei na escola japonesa sem saber falar japonês, e percebi que minha aparência deixava as pessoas em volta sem saber o que fazer. Foi uma grande mudança para mim, tanto na língua, clima e ambiente, o que me deixava muito inseguro em relação ao futuro. Só melhorou quando comecei ensino médio, ainda assim o máximo que consegui foi encontrar o meu lugar. Os japoneses são gentis e gostam de limpeza, mas foi difícil aprender a língua japonesa.

NY. O que você sente falta, estando longe de Zimbábue?

CO. O que mais sinto falta são os amigos. Mas também tenho saudades das paisagens de Zimbábue e do clima seco, as Cataratas de Victoria, Great Zimbabwe (ruínas).

Gostaria de lembrar a cultura de Zimbábue e estudar mais.

NY. Qual o seu sonho para o futuro?

CO. Quero me tornar um artista, cantor que consiga escrever músicas que passem mensagens aos ouvintes. Também gostaria de futuramente escrever letras de músicas em inglês.

Tawanda que morou dos 2 aos 4 anos na Itália, e até chegou a se perder nos túneis subterrâneos do Vaticano. Disse que ao mesmo tempo que valoriza suas raízes de Zimbábue, gostaria de ter a oportunidade de conhecer a história e cultura de diferentes países e ter a flexibilidade de aceitar culturas e valores

Desejando Boa Sorte aos Estagiários de Yamanashi em 2010

Já se passaram vários meses desde que os estagiários chegaram em Yamanashi, em Maio do ano passado. Sinceramente parece que foi ontem que eles chegaram, e os meses passaram depressa, trazendo o momento da despedida. Eles embarcaram de volta aos seus lares em Janeiro, levando em suas bagagens muitas lembranças, experiências e amizades.

Tenho a certeza de que estes meses em Yamanashi foram inesquecíveis, tanto os bons quanto os maus momentos.

Aproveito este espaço para desejar a eles muito sucesso nessa nova etapa de suas vidas em seus países, e que eles levem a outras pessoas a mesma alegria e o companheirismo que eles trouxeram a Yamanashi.

Abaixo segue um breve relato de Daniel Magno sobre sua estada no Japão.



Daniel Magno



A Importância do Intercâmbio Cultural

Daniel Magno

Quando criança, vivenciei meu primeiro contato com a cultura japonesa através dos seriados de super-heróis. Naquela época, o que me instigava eram apenas os efeitos visuais e as histórias de aventura. Com o decorrer dos anos, o interesse pela cultura oriental se expandiu para outras esferas como a música e a literatura. Mas foi após ingressar na universidade que essas bases tornaram-se realmente sólidas. O contato com o design japonês e o estudo sobre sua formação histórica solidificou o interesse que antes se pautava apenas na cultura pop difundida no Brasil. Não que eu tenha perdido o interesse pela cultura pop, pelo contrário, o que mais me instiga é justamente a forma utilizada pelo design japonês para conceber uma comunicação pop que valorize sua cultura, mas que seja capaz de apresentá-la como objeto de desejo para o mundo. Acreditando que o Brasil tenha esse potencial, durante o projeto de graduação para bacharel em design gráfico pela Universidade Estadual de Minas Gerais, propus a elaboração de produtos que, inspirados na estética japonesa, narrassem a história do carnaval de rua brasileiro das décadas de 1920 e de 1930 projetando os tradicionais ícones dessa festa a produtos de consumo, como souvenirs entre outros produtos. Assim como o Japão, acredito que o Brasil tenha um rico potencial cultural que pode ser revertido em divisas econômicas, além de proporcionar a promoção da nossa cultura em outros países do mundo. Morar no Japão vivenciando a cultura milenar que caminha em harmonia com o desenvolvimento econômico, me fez entender que esse é o meu maior objetivo: estudar o design como promotor da divulgação, proteção e manutenção da cultura tradicional e popular. Acredito que setor cultural brasileiro possa ser uma base ainda mais promissora do desenvolvimento econômico.

A cultura é uma das maiores riquezas de um nação. O Japão é um país cuja cultura se transformou num bem de consumo mundial. Todos reconhecem e querem vivenciar de perto a mística que envolve sua história, sua arquitetura e seus personagens. Meu desafio como brasileiro é pesquisar formas de despertar o interesse pela cultura do Brasil, que também é muito rica. Dessa forma, sinto-me lisonjeado por ter sido escolhido como representante de Minas Gerais como bolsista do Programa de Intercâmbio Técnico da Província de Yamanashi de 2010, uma parceria firmada em 1973 por meio de Acordo de Irmandade, visando a cooperação nos campos econômico, educacional e cultural. Esse contato de 8 meses com o Japão, fomentou minhas considerações a respeito da importância da interação cultural. Acredito que a cultura é um elemento vivo e, quando alimentada, se desenvolve, rendendo bons frutos. Vivenciar a cultura japonesa, tendo contato com pessoas de outros países é uma experiência fundamental em meu currículo. Ampliou meu respeito para com outras nações e me tornou ainda mais um entusiasta da cultura do meu país.

Com a chegada de 2011, chega também a necessidade de buscar a concretização de novas metas. Volto ao Brasil, com a alegria de ter construído novas amizades e, mais do que isso, com a certeza que a humanidade é capaz de criar laços fortes e fraternos, através da compreensão mútua e do respeito para com as diferenças. Essas diferenças não devem ser tomadas como pontos de choque e sim como elementos de integração. A cultura é um patrimônio de todos e a interação entre elas fomenta seu desenvolvimento, a faz crescer e se transformar em algo ainda maior. Agradeço ao Governo de Minas e à Yamanashi por essa maravilhosa oportunidade. Agradeço a Sannichi Printing por abrir suas portas e me acolher com tanta dignidade, afeto e profissionalismo. Agradeço aos meus amigos do International Center pelo carinho e amizade durante esse inesquecível ano de 2010.

Programação de Eventos:



Himitsu no Kokumin Show

Descubra curiosidades de vários países! Dia 19 de Março, 2011

Venha "conhecer" o mundo e descubra curiosidades de vários países junto com convidados de diferentes nacionalidades. Teremos apresentações, sessão de perguntas interessantes e curiosas e no final curta uma breve confraternização com os convidados do evento!

Data: 19 de Março, 2011. (sáb)

*** Gratuito ***

Horário: 13:00h ~ 16:30h

Vagas: 60 pessoas

Local: Centro Internacional de Yamanashi

(evento será realizado em japonês)

※Pedimos a gentileza fazer reserva com antecedência

Telefone: 055-228-5419 / fax: 055-228-5473 - e-mail: yiaevent@gmail.com

Prazo para pagamento de Imposto sobre Veículos é até o final do mês de Maio

Imposto sobre Veículos é um imposto provincial cobrado dos proprietários (no caso de veículos parcelados, é cobrado do usuário) de veículos que constam no registro da secretaria do transporte, às 0 horas do dia 1 de Abril de cada ano (exceto os veículos de pequeno porte - Keijidousha).

Todos os anos é enviado um comunicado sobre o pagamento do Imposto. Caso não conste o pagamento até a data de vencimento, após um determinado prazo, é feito a cobrança através de uma carta de "Aviso de Cobrança".

Punição por Atraso de Pagamento

Se não constar o pagamento do imposto após o envio do "Aviso de Cobrança", o proprietário (usuário) do veículo estará sujeito a punições (confisco de bens), previstos por lei.

Poderá ser realizado uma busca de seus bens (conta bancária, salário, veículo, artigos domésticos). Os bens encontrados serão confiscados Sem Aviso prévio, e utilizados para o pagamento de seus impostos pendentes.

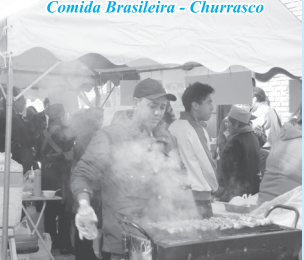
INTERNATIONAL SCHOOL DAY

Realizado no dia 16 de Janeiro, 2011. Este evento realizado em inglês, contou com a presença de 46 participantes, desde jovens do ensino médio até senhores da terceira idade! Quatro professores estrangeiros foram convidados para realizar as aulas, e sem dúvida capricharam!



WORLD CHARITY CHRISTMAS 2010

Foi realizado dia 11 de dezembro no Centro Internacional de Yamanashi, o tradicional "World Charity Christmas", onde compareceram cerca de 260 pessoas. Este ano o evento contou com a feirinha de natal, karaokê, shows e comida de diversos países, e claro, a presença de nosso querido Papai Noel! Graças ao apoio e colaboração de todos, foi possível arrecadar brinquedos e uma impressionante quantidade de material escolar que será entregue as crianças de Camboja.



Apresentação do grupo Donshaka People

Comida Brasileira - Churrasco

AGRADECIMENTOS:

Gostaríamos de agradecer as pessoas e organizações nos apoiaram este evento de caridade. Entre elas, Soroptimist Intern. Yamanashi, Embaixada Real da Camboja, Sadoya, Kofu Fujiya Hotel, Fábrica Goko Yamanashi, Oz Printing, Okukyo Ryuo, Azusa, Coca-Cola Central Japan, Escritório Unimat Life Kofu, Clube Esportivo Ventfore, Kobayashi Jimuki, Kinpo Shoukai, FM Fuji, FM Kofu, Harmony, Mammy Craft, Thai Restaurant Lótus, Restaurante Coreano Ajiyoshi, Assoc. de Língua e Intercâmbio Cultural Chinês da Província de Yamanashi, Takoyaki do Papai, Estilo Brasil, Donshaka People Sra. Yayoi Gutschow, sr. Lasse Holm, Sr. Tatsumi Ito, sr. Kenichi Iwasaki, sr. Yann Printemps, YETI, a todos os voluntários e as pessoas estiveram presentes.

Doação

Parte do dinheiro arrecadado foi doado para a ONG "Good Earth" para ser utilizado em projetos em benefício de Camboja.



Presidente da YIA Sr. Ashizawa Kaoru entregando doação ao Sr. Kudo, da ONG "Good Earth".

Receita Kanjon de Frango

Cozinha Internacional

Ingredientes:

- 500 gramas de frango (peito ou coxa)
- 100 ml de leite
- 1 colher sopa gochujang (condimento apimentado)
- 75 gramas de ketchup
- 320 gramas de molho de pimenta (chili)
- 3 ~ 4 dentes de alho
- 150 ml de água
- 75 gramas de amendoim (triturado)
- 300 gramas de farinha para tempurá
- sal e pimenta a gosto
- óleo para fritar

Kanjon é um prato típico da cozinha coreana.

Este prato (kanjon de frango) feito com frango frito envolto com um delicioso molho picante, é uma variação atual do tradicional Kanjon, muito apreciado como lanche da tarde para as crianças. Quem nos apresentou este prato foram: Kim Jihe e John Donshin



modo de fazer:

- Retire a pele, e coloque de molho no leite por cerca de 30 min. e reserve
- (*1) Em uma vasilha misture o gochujang, ketchup, molho de pimenta, alho picado e a água e reserve.
- Lave o frango que estava de molho, corte em pedaços e tempere com o sal e a pimenta. Dissolva a farinha de tempurá com água, passe o frango na mistura e frite em fogo médio (170° ~ 180°C) até dourar. Retire uma vez do fogo e deixe esfriar antes de fritar novamente (desta vez em fogo alto)
- Leve (*1) a mistura do molho ao fogo e cozinhe até engrossar. Acrescente o frango frito e o amendoim e sirva em um prato.

==> fritar duas vezes deixa a casca crocante
==> o alho e o amendoim podem ser triturados no liquidificador

Transmissão Digital Terrestre

Já se preparou? É dia 24 de Julho, 2011.



Reparou em uma mensagem que fica no canto superior da tela? Ou mensagens que aparecem durante os intervalos da TV? Estes são lembretes que transmissão analógica vai terminar em 24 de julho de 2011. Para poder receber a transmissão digital, é preciso ter um aparelho adaptado para receber transmissão digital. Há duas opções, a primeira é adquirir um aparelho novo já adaptado a receber sinais digitais (certifique-se no momento da compra se o aparelho recebe sinais digitais terrestres) e a segunda é instalar um conversor para transmissão digital terrestre ou um gravador com conversor digital em seu aparelho atual. Caso opte por um conversor, a imagem apesar de ser em Hi-Vision, terá a mesma qualidade de um televisor analógico (há também conversores para computador).

Informações acesse o site do Ministério do Interior e Comunicações (http://www.soumu.go.jp/joho_tsushin/whatsnew/digital-broad/) / informações em português: (http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/dtv/pdf/chideji_hayawakari04_pr.pdf)

Aulas gratuitas de japonês para estrangeiros

Aulas de japonês para estrangeiros residentes na província de Yamanashi .

Data: às sextas-feiras

Horário: das 19.00 às 21.00hs

Local: Centro Internacional de Yamanashi (Kofu-shi, lida, 2-2-3)

Informações pelo telefone: 055-228-5419

Consultas e aconselhamentos jurídicos gratuitos

Serviços de consulta e aconselhamento sobre assuntos jurídicos ou diversos gratuito para estrangeiros residentes em Yamanashi .

Consultas: Primeira quarta-feira de cada mês, das 18.30hs às 21.00hs
Terceiro domingo de cada mês, das 13.00hs às 16.00hs

Local: Centro Internacional de Yamanashi (Kofu-shi, lida, 2-2-3)
Informações pelo telefone: 055-228-5419

*** Agendar as consultas ***

YAMANASHI GAKUIN UNIVERSITY'S STUDENT AND SINGER KATEDA TAWANDA

Dreams for the children in Africa. "Stevens Jealousy", a power trio rock band from Yamanashi Gakuin University, is using the profits of their CD to send soccer balls to children in Zimbabwe. We asked Kateda Tawanda, one of the members from Zimbabwe, to tell us a little more about their project. :

YIA: -What made you start your activities as a group?

Tawanda: When I became a university student, I started to think about bridging cultural divides, since I could speak Japanese, English and Shona (a language spoken in Zimbabwe). I realized that music, that I love, would be the best way for me to do so.

-Why did you think about sending soccer balls rather than money?

T: I was playing soccer in High School, at Teikyō IIIrd High School. What's more, last year the World Cup was held in South Africa, which made me think about poor kids in Zimbabwe. I decided to send them soccer balls with the wish that they could smile again.

-What is the meaning/origin of your band, "Stevens Jealousy"?

T: It's been my band's name since High School, because people have been telling me I have similarities with Steven Gerrard. The actual band was formed in April, with 3 members. I'm in charge of the bass and the singing.

-Where can we buy Stevens Jealousy's CD?

T: At the places where we perform, or at the Student Counselling and Assistance Office (gakusei sōdan shien shitsu) of Yamanashi Gakuin University (TEL: 055-224-1402), for the price of 500 yen. Fortunately, we managed to receive a grant from the University Students Challenge Programme, which allowed us to make and sell our CD.

-Could you tell us about your recent activities?

T: We are performing live every month. You can see information about our schedule on our home page (<http://47.xmbs.jp/kobuti/>). In the future I'd like to not only do music but also to tell about the actual situation in Zimbabwe.

-What are your hobbies?

T: Music, soccer, movies, learning about political and environmental problems. Meeting people from many countries and hanging out with my friends.

-You moved from Zimbabwe to Japan at the age of 14 because of your father's job. What are your impressions of Japan, and did you feel any culture shock?

T: I was first impressed by the high buildings in Tokyo. The streets and roads stuck in this narrow space seemed like a labyrinth to me.

I entered a Japanese Junior High School without the capacity to communicate, and I could see that people around me were disturbed by our differences. I was worried about my future in this place where language, climate and environment are so different. Things settled down during my first year of High School. However, I am still doing my best to find my place in all of this. People in Japan are all very nice and neat. Learning Japanese was difficult though.

-What are some things you miss about Zimbabwe?

T: First of all, my friends. I also miss Zimbabwe's landscape and its dry climate, Victoria Falls, the ruins of Great Zimbabwe. I want to remember Zimbabwe's culture, and I want to study it more.

-What are your dreams for the future?

T: I want to become a singer-artist who can make songs with a strong message. In addition, I would like to write songs in English.

.....
Tawanda lived in Italy from the age of 2 to 6. He remembers getting lost in the Vatican's basement, and playing around the funerary urn of the Pope. Tawanda says that, while taking care of his Zimbabwean identity, he wants to always be open to other cultures and learn the history and culture of several countries.



WORLD CHARITY CHRISTMAS REPORT



This year, more than 260 visitors came to enjoy Christmas at the International Centre on December 11th. From 10:30 to 16:30, many activities occurred on the two floors of

the wonderfully decorated centre: a Christmas Market, activities for children, an international Karaoke Contest, a Christmas raffle and music performances in the afternoon. You could also savor delicious food from all over the world at the "Gourmet de Noel" food corner.

Out of the profits of the event, 100,000 yen will be donated to the association "Good Earth Japan", a charity association striving for the restoration of land mine-cleared regions. The stationary collected will be brought directly to children in Cambodia by singer-song writer Kenichi Iwasaki, who is assisting with music exchange in Cambodian elementary schools.

We would like to thank all the groups and people who brought their assistance for the success of the event and the collecting of donations:

Soroptimist International Yamanashi, the Royal Embassy of Cambodia to Japan, Yamanashi Taiwan Association, Sadoya, Kōfu Fujiya Hotel, Gokō Yamanashi Factory, Oz Printing, Okukyō Ryūō 5th store, Azusa, Coca-Cola Central Japan, Unimat Life Kōfu Business Office, Ventforet Yamanashi Sports Club, Kobayashi Jimuki, Kinpō Shōkai, FM Fuji, FM Kōfu, Harmony, Mammy Craft, Thai restaurant Lotus, Korean restaurant Ajiyoshi, Yamanashi Prefecture Chinese Language and International Exchange Association, Takoyaki do Papai, Estilo Brasil, Donshaka People, Mrs. Yayoi Gutschow, Mr. Lasse Holm, Mr. Tatsumi Itō, Mr. Kenichi Iwasaki, Mr. Yann Printemps, YETI, and all the volunteers.

秘密の コクミンSHOW

NEXT EVENT

Himitsu no Kokumin Show @ Yamanashi International Centre

秘密の コクミンSHOW

If you watch Japanese television, you might know the programme called "Himitsu no Kenmin Show", where celebrities from several areas of Japan come to talk about their region. Most of the time, guests try to introduce singular aspects of their hometown that people usually don't know.

For the next international event, the Yamanashi International Association will welcome guests from various countries in the world, and invite them to talk about places and customs that you won't find

out in guidebooks. After individual presentations, the guests and the participants will be able to communicate together through a Q&A session and an exchange meeting.

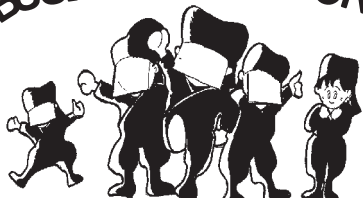
DATE: Saturday, March 19th - 1PM-4:30PM

PLACE: Yamanashi International Centre (Iida 2-2-3, Kofu City)

ENTRANCE: Free (APPLICATION REQUIRED - Max. 60 participants)

CONTACT: yiaevent@gmail.com (E-mail)/055-228-5419 (Tel)

ビジネスサポート BUSINESS SUPPORT



こんな時は私たちにご相談ください！！

ビザの延長や変更の手続きは？国際結婚の手続きは？永住／帰化の手続きは？

Consult us about...

- renewal VISA
- changing of status of residence
- an international marriage
- naturalization
- permanent residence

We are helping for foreigners to apply for all kind of VASA.

ビジネスサポート行政書士事務所 (申請取次行政書士 藤原 進)

〒409-3867 山梨県中巨摩郡昭和町清水新居 1666 TEL:055-233-0211

営業時間 08:30~18:30 (土、日、祝日は休業)



Kateda Tawanda

カテダ・タワンダ

1988年、アフリカ・ジンバブエハラレに生まれる。父がジンバブエ人、母が日本人。父親の仕事の関係で、14歳の時に来日。母国ジンバブエの子供たちのために、大好きな音楽を通して、サッカーボールを届ける活動をしている。現在、山梨学院大学 経営情報学科 3年生。北杜市在住。

「アフリカの子どもたちに夢を！」山梨学院大の学生によるスリーピースロックバンド「Stevens Jealousy」は、製作した音楽CDの売上金を使って、ジンバブエの子どもたちにサッカーボールを届ける活動をしています。バンドのメンバーで、今回の企画をしたジンバブエ国籍のカテダ・タワンダさんにお話を伺いました。

■ この活動をはじめのきっかけは？

K: 大学生になり、日本語、英語、ショナ語（ジンバブエの言語）が話せることから、ジンバブエと日本の架け橋になりたいと思うようになりました。その時、私にできることは好きな「音楽」だと思い、はじめました。

■ なぜお金でなく、サッカーボール？

K: 高校時代（帝京第三高校）サッカー部に所属していました。また、昨年、南アフリカでワールドカップが開催され、その時、貧しいジンバブエの子供たちのことを思いました。笑顔でサッカーをしてもらえたらという願いから、サッカーボールを送ろうと決めました。

■ バンド「Stevens Jealousy」の意味／由来は？

K: 高校時代からのバンド名で、私が、イギリスのリバプールに所属するサッカー選手、スティーブン・ジェラードに似ていることからこのバンド名になりました。今のメンバーは4月から3人。私はベースとボーカルを担当しています。

■ 「Stevens Jealousy」のCDはどこで購入できますか？

K: ライブ会場や山梨学院大学の学生相談支援室（055-224-1402）で500円で販売しています。幸運にも大学の学生チャレンジ制度で奨励金をいただき、CDの制作販売等を行うことができました。

■ 現在の活動状況を教えてください。

K: 月に何度かライブ活動をしています。HP (<http://47.xmbs.jp/kobuti/>) でライブ情報を掲載しています。将来は、音楽だけでなく、ジンバブエの現状も伝えたいと思っています。

■ 趣味は？

K: 音楽、サッカー、映画鑑賞、政治や環境問題について学ぶこと。いろいろな国の人と会うこと。友人と遊ぶこと。

■ お父さんの仕事の関係で14歳でジンバブエから日本へ。日本の印象、カルチャーショックは？

K: まず最初に東京の高層ビルに驚きました。狭い空間に押し込まれた町、道路など迷路みたいだと思いました。コミュニケーションも取れない状態で日本の中学校に入り、見た目が違う自分に周囲が戸惑っていたのがわかりました。ことば、気候、環境が大きく違い、将来がとても不安でした。落ち着いたのは、高校一年生の頃。でも、まだ自分の居場所を見つけるのが精一杯でした。日本人は、皆やさしくてきれい好き。でも、日本語は難しかったです。

■ ジンバブエを離れて恋しく思うものは？

K: まずは、友人。そしてジンバブエの風景とドライな気候、ウィクトリアの滝、グレイト・ジンバブエ（遺跡）。ジンバブエ文化を思い出したいと思いますし、もっと勉強したいと思います。

■ 将来の夢は？

K: 強いメッセージ性を持った曲が作れるシンガー、アーティストになりたいです。また、英語で曲作りをしていきたいと思っています。

2歳から6歳までイタリアで過ごしたタワンダくん。パチカンの地下で迷子になったり、ローマ法王が眠る棺周辺で遊んだ記憶もあるのだとか。

ジンバブエ人としてのアイデンティティを大切にしながら、異文化に対して常にフレキシブルでありたい、そしてさまざまな国の歴史や文化に触れていきたいと語ってくれました。

クッ キン グ @ ホー く

KOREAN BBQ CHICKEN



金枝恵（キムジヘ）さん（右）は、山梨県と姉妹関係にある韓国・忠清北道出身。現在は山梨県庁観光部で、忠清北道と山梨県の交流事業等を担当しています。趣味は旅行。できる限り日本各地を旅したいそうです。

全東信（ジョンドンシン）さん（左）は、韓国・忠清北道出身。県費留学生として山梨学院大学で日本語教育論を学んでいます。趣味はジムで体を鍛えること。テコンドーは2段の腕前。

「鶏（タッ）カンジョン」<韓国風唐揚げ> (韓国家庭料理)

材 料 (約4人分)

鶏肉（部位は胸、モモなどお好みで）・・・ 500g
牛乳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 100cc
コチュジャン・・・・・・・・・・・・・・ 大さじ1
トマトケチャップ・・・・・・・・・・・・ 75g
チリソース（小1本）・・・・・・・・・・・・ 320g
ニンニク・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3～4個
水・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 150cc
ピーナッツ（細かく砕いたもの）・・・・ 75g
塩、コショウ・・・・・・・・・・・・・・ 適量
サラダ油・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 適量
天ぷら粉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 300g



- ソースは、とろっとするまで煮詰めるのがポイント！
- ニンニク、ピーナッツは、ミキサーで細かくしてもOK。

作り方

- 鶏肉の皮の部分を取り除き、牛乳に30分ほどつけておく。（鶏肉の生臭みを消す効果あり）
- 大きめのボールにコチュジャン、トマトケチャップ、チリソース、細かく刻んだニンニク、水を入れ混ぜ合わせソースを作る。
- 鶏肉を水で洗い、一口大に切り分け、塩こしょうで下味をつけておく。天ぷら粉を水でとき、鶏肉にからめる。
- 170～180℃の中火で揚げ、キツネ色になったら取り出す。（一度冷ましてから、高温で二度揚げするとよりかりっとなります）
- フライパンにソースを流し入れ、火にかけとろっとするまで煮詰める。火を止め、鶏肉とピーナッツを入れ混ぜ合わせてお皿に盛りつける。

伝えたいをカタチにする一滴

<http://www.ozp.jp>



出版 印刷 紙工

有限会社 オズプリンティング

☎ 055-235-6010(代)

〒400-0032 甲府市中央3丁目8-10 FAX:055-232-4098 E-mail: info@ozp.jp

World Charity Christmas 2010 ご協力ありがとうございました！



昨年12月11日、国際交流センターにて恒例の「ワールド・チャリティ・クリスマス」が行われ、260名を超える皆さんにお越しいただき誠にありがとうございました。参加費や抽選会、各国料理ブースの売上等の収益金の一部100,000円は、カンボジアにおいて地雷除去後の地域の復興や住民の再建支援を主な活動としている特定非営利活動法人「豊かな大地」<http://www.good-earth-japan.org/>へ贈らせていただきました。

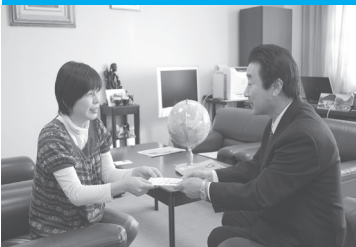
また、当日お寄せいただいた文房具等は、カンボジアの子どもたちとの音楽交流や小学校建設などで支援を行っている岩崎けんいちさんを通して、カンボジアの小学校へ送らせていただきます。

ご協力をいただいた皆さま、本当にありがとうございました。

ご協力いただいた団体・個人の皆さま

国際ソロプチミスト山梨、在日カンボジア王国大使館、山梨台湾総会、(株)サドヤ、甲府富士屋ホテル(株)、(有)五光山梨工場、(有)オズプリンティング、奥藤竜王第五分店、(有)アズサ、ココ・コーラセントラルジャパン(株)、(株)ユニマッドライフ甲府営業所、(株)ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ、(株)小林事務機、(株)金峰商会、エフエム富士、エフエム甲府、フェアトレード雑貨ハーモニー、マミークラフト、ロータス、味よし、山梨県中国語・国際交流会、たこやきdo PAPA!、YETI、エスチロ・ブラジル、ドンジャカ・ビーポー(敬称略)、グッチョウ弥生さん、ラッセ・ホルムさん、伊藤達美さん、岩崎けんいちさん、ヤン・プランタンさん他ボランティアの皆さま

山梨県国際交流協会 グローバル支援事業 「ハイチ友の会」へ寄付金



山梨県国際交流協会では、年間を通じて募金や未使用の文具等の収集活動を行い、開発途上国及び海外の被災地等の支援に役立てることを目的に「グローバル支援事業」を実施しています。

昨年1月の大地震後、20万人以上の命が奪われたハイチ共和国。

昨年10月からコレラが大流行し、多数の死者が出ています。

今回は、1995年に発足し、これまで教育支援、農村開発などの草の根支援を続けている「ハイチ友の会」http://friendsofhaiti.home.mindspring.com/j_new/index.html (小澤幸子代表)へ100,000円を贈りました。

JICA 募集のお知らせ

○ JICA 教師海外研修

小中高校の教員が国際協力の現場に触れ、授業実践を行うプログラムです。
募集期間：3月下旬～5月中旬 研修国：未定
応募対象：小・中学校、高校、特別支援学校、および教育委員会において教育活動に従事されている方
詳細は、JICA 地球ひろばのHPから、「教育関係者の方へ」へ進んでください。

○ JICA ボランティア

開発途上国でご自身の知識・経験を生かしてみませんか？
募集期間：4月1日～5月16日
応募対象：日本国籍を持つ20才から69才の方
詳細は、JICA 国際協力機構のHPからJICA ボランティアをご覧ください。

JICA 山梨デスク 伊藤

〒400-0035 甲府市飯田二丁目2-3 (財)山梨県国際交流協会内
Tel. 055-228-5419 Fax. 055-228-5473 jicadpd-desk-yamanashiken@jica.go.jp
JICA <http://www.jica.go.jp>



ちじょう 地上デジタル放送受信のために



いままでのテレビ放送(地上アナログ放送)は、**2011年7月24日**で終了してしまいます。それまでに、皆さんのテレビを「地上デジタル放送」対応に変えなければ、テレビが見えなくなってしまいます。地デジ放送を受信するためには、地デジ対応テレビに買い替えるか、地デジチューナーを取り付ける必要があります。

(問合せ先：総務省 0570-07-0101 日本語・英語・中国語・韓国語・ポルトガル語による「地上デジタルテレビ早わかりガイド」パンフレット：http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/dtv/pamphlet/pamphlet1.html)

総務省では、経済的な理由でどちらの対策もできない人(生活保護世帯など)に対して、簡単なチューナーを無料で給付する支援を行っています。

(支援申込みなどに関する問合せ先「地デジチューナー支援実施センター」：<http://www.chidejishien.jp> 0570-03-3840, 044-969-5425)

国際交流センターをご利用下さい

国際交流センター会議室の貸し出しを行っています。
<http://www.yia.or.jp/kaigishitu.html> (詳細はこちらへ)
会議室使用料

	午前	午後	夜	全日	超過料金
	9:00a.m. } 12:00a.m.	1:00p.m. } 5:00p.m.	6:00p.m. } 9:00p.m.	9:00a.m. } 9:00p.m.	1時間 Per hour
大会議室 Large Conference Room	2,200円	3,310円	3,310円	8,830円	730円
小会議室 Meeting Room	720円	1,100円	1,100円	2,910円	240円

会員登録をありがとうございました！

個人会員 (入会順・敬称略)

11月～1月 6名

団体会員 (入会順・敬称略)

11月 (財)山梨YMCA 国際ソロプチミスト山梨-南
市川三郷町国際交流協会 国際ソロプチミスト山梨-芙蓉

12月 ラボ国際交流センター山梨

1月 山梨市国際交流促進委員会、山梨県中国語・国際交流会

国際ボランティアクラブ、山梨県ボランティア協会
多文化共生ネットワーク「地球村」、ユニタス日本語学校



「外国人なんでも相談」

と き 第1水曜日 午後6時30分～9時
第3日曜日 午後1時～4時
ところ 県国際交流センター
相談員 法律専門家 草野 類氏、金 亮完氏
通訳 林ジョニー氏
言語 ポルトガル語、スペイン語、英語、インドネシア語、日本語
※必要に応じてその他の言語対応可
費用 無料
問合せ (財)山梨県国際交流協会 tel.055-228-5419

「にほんご講座」

と き 毎週金曜日 午後7時～9時
ところ 県国際交流センター
対象 県内在住で日本語を勉強したい人
問合せ (財)山梨県国際交流協会 tel.055-228-5419

3月

国際サロン「秘密のコクミンSHOW」

日本各地のその土地だけで行われている行事・習慣を紹介している人気テレビ番組「秘密のコクミンSHOW」。今回は、そのインターナショナル版です。韓国、アメリカ(ハワイ)、カナダ、ブラジルなど、さまざまな国の皆さんをゲストに迎え、ガイドブックには載っていないびっくり文化や習慣を紹介します。
と き 平成23年3月19日(土)
午後1時～4時30分
定員 60名
場所 県立国際交流センター
参加費 無料
問合せ (財)山梨県国際交流協会 tel.055-228-5419

Free Legal Consultation for Foreigners - on Wednesdays and Sundays

When: Every first Wednesday night of the month. From 6:30 pm to 9 pm.
and every third Sunday afternoon of the month. From 1 pm to 4 pm.
Where: Yamanashi International Centre.
Consultant: Johny Hayashi.
The consultation is available in English, Indonesian, Portuguese, Spanish and Japanese. The service is FREE OF CHARGE.
* Mr. Hayashi is accompanied by other legal professionals.

Japanese Language Class

Time: Every Friday night, 19:00~21:00
Location: Yamanashi International Centre.
The class is for foreign residents in Yamanashi and is FREE OF CHARGE.

March

International Salon Himitsu no Kokumin Show

You might have heard of the "Himitsu no Kenmin Show", a popular Japanese variety show presenting special characteristics and unique customs of different prefectures in Japan. At this event, you will be able to take part in a similar but an international version of the show. Come and listen to our guests from countries such as Korea, United States (Hawaii), Canada and Brazil who will introduce you trivia facts and habits of their homelands that

you usually don't find in guidebooks.
When: Saturday, March 19th - from 1PM to 4:30PM
Maximum number of participants: 60 people
Place: Yamanashi International Center
Entrance fee: Free
Inquiry & Application: Yamanashi International Association - Tel: 055-228-5419

Consultas e aconselhamentos jurídicos gratuitos às quartas-feiras e aos domingos.

(com reservas antecipadas)
As quartas-feiras: toda primeira quarta-feira do mês. Das 18h30 às 21h.
Aos domingos: todo terceiro domingo do mês. Das 13h às 16h.
Local: Yamanashi International Center (Kofu-shi, Iida 2-2-3)
Advogado: Rui Kusano / Yangwhan Kim (Professores de direito da Universidade Yamanashi Gakuin)
Intérprete: Johny Hayashi (Português, espanhol, bahasa, inglês e japonês).
※Dependendo das necessidade do consulente, providenciaremos intérpretes para outros idiomas na medida do possível.

Aulas gratuitas de japonês

Data: todas as sextas-feiras, das 19 às 21h.
Local: Centro Internacional de Yamanashi
Público-alvo: todos os estrangeiros residentes na província e que tenham interesse em aprender o idioma japonês. O curso é gratuito.

março

Himitsu no Kokumin Show (Descubra curiosidades de vários países)

Convidados de diferentes países estarão apresentando curiosidades de suas terras e respondendo a perguntas divertidas. Com certeza você vai descobrir algo novo e engraçado. Esperamos que aproveitem também a confraternização com os convidados, com direito a biscoitos.
Data: 19 de Março, 2011(sáb.)/das 13h às 16:30h
Local: Centro Internacional de Yamanashi
Vagas: 60 pessoas (gratuito) / (será realizado em japonês)

財団法人山梨県国際交流協会
設立20周年記念事業

記念講演会 『2011年日本の針路・世界の行方』

と き 平成23年3月13日(日)
午後2:00～3:30(予定)
講師 手嶋 龍一(てしまりゅういち)氏
ところ 甲府富士屋ホテル 昇仙閣
問合せ/申込み (財)山梨県国際交流協会
tel.055-228-5419

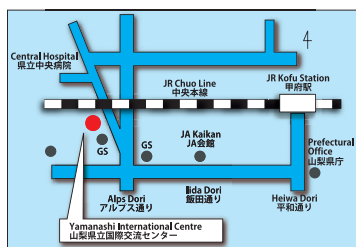
★講師プロフィール
外交ジャーナリスト・作家。元NHKワシントン支局長。9・11同時多発テロ事件に際しては11日間にわたる24時間連続放送を担い、その冷静で的確な分析は視聴者の圧倒的な支持を得た。すでに80年代からノンフィクションの書き手として注目されている。



The International centre is open daily from 9:00am to 9:00pm except on Mondays and on the day following a national holiday.

URL www.yia.or.jp

MAIL webmaster@yia.or.jp



編集後記

国際交流協会は設立20周年を迎えました。手探りの国際交流からはじまり、国際協力、国際貢献、民間団体との協働、多文化共生へと、時代と共に協会の役割は変わってきました。
先日、ハイチ友の会代表 小澤さんが話していたこと。「私がハイチの人たちと関わるきっかけは、最初に参加した国際支援団体の敷居が低かったこと、言葉もできない、何も知らない私でも何かできると背中を押してくれたから。」
どなたでも気軽に足を運んでもらえる国際交流協会。20年を迎え、原点の大切さを楽しみ感じています♥
雨宮

A primavera está aí, assim como as flores. Está começando a temporada de flores de cerejeira, famosa pelo mundo e muito importante para os japoneses, marcando o fim e o início de muitas coisas, como o início das aulas das crianças. Particularmente, estou desde já (e ainda é fevereiro...) na expectativa para ver as flores de cerejeira e de pêssego e poder tirar muitas fotos!
Também estou planejando fazer caminhadas, pois o inverno e as festas de fim de ano ajudaram a ganhar uns quilinhos extras... E vocês, já tem planos para a primavera?
Cristina

The convenience store next to my apartment closed down and that was a shock to me, but all I need to do now is just to walk a few minutes down the street to this other store instead.
It is funny how we really get used to comfort. In France, there is no convenience store opened 24/7, but that had never bothered me before I came to Japan... Sometimes I think Japan might be a little too convenient.
Victor

Yamanashi

2011年3月・4月・5月号

- 発行 財団法人山梨県国際交流協会
- 編集 雨宮由里恵 真砂クリスティーナ
ヴィクトール・バルザン
- イラスト 松岡瑠理子
- Published by
Yamanashi International Association
- Edited by
Yurie Amemiya Cristina Masago Victor Balsan
- Illustrated by
Ruriko Matsuoka

〒400-0035 甲府市飯田 2-2-3
tel 055-228-5419 fax 055-228-5473
2-2-3 Iida, Kofu-Shi, Yamanashi-ken,
Japan 400-0035